

岩手県立大槌病院



大槌病院の歴史は昭和14年に創設された岩手県医薬購買販売利用組合連合会大槌病院より始まり昭和25年に岩手県医療局に移管となり岩手県立大槌病院として発足しました。平成23年の東日本大震災で被災し病院2階天井付近まで浸水しました。現在は50床の病院で、仮設診療所を経て、平成28年に新築移転しました。人口1万人の大槌町において唯一の入院施設として開業医の先生方、介護福祉の関係の皆さんと連携し地域医療に貢献していきます。病院機能の役割分担により、当院では診療科の不足と十分な急性期医療の対応は困難ですが、近隣の県立病院と連携し診療をしています。令和6年には中部病院地域医療実習の研修医を2名受け入れました。平成30年より地域包括ケア病床を導入し、急性期の治療が終わった方を転院で受け入れ、その間に介護サービスの調整やリハビリを行っています。患者さんへ退院後の生活の備え、支援を提供する取り組みを行っているところです。また自宅で介護を受けながら生活されている方に一時的に入院していただくことも可能です。地域の皆様に利用していただけるように今後も取り組みを進めていきます。

令和6年 院長 石川 徹